

研究室名	神経生物学研究室 学会発表
------	----------------------

【発表者について】アンダーラインは本学教員、研究員および技術職員、○は発表者、※は大学院生、卒研究生または卒業生

発表時期	2018年11月16日
学会名	第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会
演題名	ネオニコチノイド系薬剤がマウスの脳に対するゲノムDNAのメチル化および遺伝子発現におよぼす影響について
発表者	○※ <u>清水仁美</u> 、 <u>和賀央子</u> 、※ <u>横森将輝</u> 、 <u>平澤孝枝</u> 、 <u>大沼一富</u> 、 <u>内野茂夫</u> （神経生物学研究室）
内容	2018年11月14日から16日に、東京ドームホテルにおいて第28回日本臨床精神神経薬理学会・第48回日本神経精神薬理学会が開催され、大学院生1年の清水仁美がポスター発表を行った。1990年代初めに開発されたネオニコチノイド系薬剤は、昆虫のアセチルコリン受容体に種選択的に作用することから、日本を含む世界各国で農薬として汎用されているが、ヒトの健康に対して懸念が挙げられている。そこで、本研究では、成体マウスにネオニコチノイド系薬剤（ジノテフラン、イミダクロプリド）を投与後、脳内のゲノムDNAのメチル化の網羅的解析、さらに、定量PCRを用いた遺伝子発現解析を行った。その結果、ゲノムDNAのメチル化や遺伝子の発現に影響を及ぼすことが明らかとなり、さらにその標的遺伝子は各薬剤により異なることが明らかとなった。
関連画像	